



2016年(平成28年)12月5日(月曜日) (4)

シリーズ ⑧ 進化するテレコム市場 「NetEvents 2016 USA」から

ウェッジネットワークス

ウェッジネットワークスは、カナダ・カルガリー市に02年10月に設立。企業ネットワーク、サービスプロバイダ及び通信事業者向けのネットワークセキュリティ製品として、Tie1通信キャリアのクラウドネットワーク上で試験導入され、その後、通信キャリアが企業向けに提供する「セキュリテイ・アズ・ア・サービス」として利用されている。

同社の戦略製品「ウェッジ」は、米カリフォルニア州のサラトガで9月21日、22日の両日に開かれたネットイベント2016 USAの会期中、AIと機械学習技術を利用したエンドポイント・マルウェア防御製品を提供している。サイリクスと協業し、マルウェアをリアルタイムでブロック、対応策を指示するシステムを開発。ランサムウェアやゼロデイ攻撃などの高度な脅威にも対処できる製品を発表した。

同社のフランク・ウィーナー・マーケティング副社長は、サイバーセキュリティ

市場の現状について、次に拡大している「米連邦捜査局(FBI)に報告されたランサムウェア系のサイバー攻撃にさらされた被害の規模は15年の1年だけで2453件、総額2400万ドルに達する。16年も増加の一途をたどっている。おそろしく被害額はこれをほるかに上回るといわれている。恥をかきたくない個人や企業が得済ハイパーインフレに相対したらいかわから

リユート・リアルタイム・プロテクション(Wedge ARP)「シリーズ初の製品となる。仮想マシンまたはアプリケーションの形態で提供され、サイリクス社のリアルタイムインスペクションエンジンと統合したリユート・リアルタイム・プロテクションにより、すべての脅威はネットワークに侵入する前にリアルタイムでブロックされるため、侵入後に発生される費用、業務

端末の「水際」で防御

AI活用しマルウェア探知

高度なマルウェアとランサムウェア攻撃はグローバル規模で生産性の損失と経済的な被害をもたらす。その手口は日々、巧妙さを増しており、とくにエンドポイントデバイスが攻撃目標にしている。これらの攻撃は米国とヨーロッパでは蔓延しているが、APAC地域ではまだ少数。しかし急速に拡大している。

フランス社のマシンラーニングエンジンと組み合わせることができる。ウィーナー副社長は同社のネットワークセキュリティソリューションの製品ポートフォリオについて、「革新的な「ウェッジ」で稼働するウェッジOS」上で稼働するウェッジAMBは、オーケストレーション、マルウェア・ブロック・アンチマルウェア・スパム、アンチマルウェア・融合したマルチレイヤの高性能アーキテクチャを採用している。当社の製品は、その信頼性の高い簡単な設置方法と相まって、世界中の先進的ネットワークの保護および高度化に利用されていると説明する。

ユリテイ・アズ・ア・サービスを提供する企業とネットワークオペレータは、セキュリティを実現するため、常にアップグレードされているマルチベンダ技術を用いて、ネットワークをより効率的に使用することができる。APACの地



フランク・ウィーナー・マーケティング副社長



ネットイベントのパネルディスカッション風景